

わが街 Watching



▲作品に見入る来場者

第11回合同作品展

白いおくりもの〜地域の人への感謝を込めて

3月13日～15日、つくしの里、第2つくしの里、アドバンスセンター（川宮）で合同作品展が開催されました。

ホワイトデーにちなみ「白いおくりもの」がテーマの今回は、市内外の7作業所の協力によるパンやケーキ、豆腐などの手づくり食品、手づくり小物などの展示即売、さをり織り体験などが行なわれました。また、大藪小児童の歌や劇、田川科学技術高校のミニSL運行、もちつき、落語、篠笛演奏なども行なわれ、約200人が訪れ楽しんでいました。

つくしの里職員の池田範子さんは、「地域の人たちへの感謝を込めました。作品展の準備にみんなで取り組み、一体感やまとまりができてよかった」と話していました。

鎮西校区で男女共同参画イベント

男女共同参画で地域づくり

3月14日、鎮西小学校で校区活性化協議会（竹本恵会長）主催の男女共同参画研修会が開催されました。

研修会では、「もったいない！女性の英知」をテーマに、昔と今の授業を比較しながら男女共同参画を面白おかしく語った川崎亭好朝さんの落語と、身近な女性の昇進に焦点をあて、女性自身の意識、家族の理解、地域における女性の意識などを訴えたたがわ21女性会議の劇「私は『イヤ』とはいわない」が上演されました。

参加した宮本智恵さんは、「男女共同参画を難しく感じていたが、劇は身近でわかりやすかった。今後は、地域での取り組みなどに積極的に参加したい」と話していました。



▲「私は『イヤ』とはいわない」の一場面

おめでとうございます



▶表彰楯

ふるさとイベント大賞
炭坑節まつりが奨励賞を受賞

3月11日、(財)地域活性化センターが主催する「第13回ふるさとイベント大賞」で、「第3回TAGAWAコールマイン・フェスティバル」炭坑節まつりが奨励賞を受賞しました。

平成8年度に地方自治法施行50周年を記念して創設された同大賞は、地域の活力を生み出すイベントを表彰するものです。今回は、応募総数200件の中から都道府県の推薦を受けた147件が審査を受けました。奨励賞は、大賞（1件）、優秀賞（2件）に次ぐ賞（3件）です。炭坑節まつりは、炭坑節発祥の地ならではの祭りであることや、準備や運営に市民ボランティアが参画することにより、住民の交流や連帯感が深まったことなどが評価されました。

国際ソロプチミスト田川が寄付

児童図書に貢献

2月26日、国際ソロプチミスト田川（米安真由美会長）が、チャリティーゴルフやバザー、オークションなどで得た収益から社会奉仕事業の一環として、図書館、寺小屋共同作業所「ほのぼのの家」、伊加利人形芝居保存会、NPO法人昴の関係者に各5万円を寄付しました。

図書館への寄付は、平成2年から毎年行われ、今回20回目で合計100万円となり、「国際ソロプチミスト田川文庫」の児童書は565冊となりました。

伊藤信勝市長は、「住民参加のまちづくりを推進していますが、できる支援をできる形でなっただき、感謝しています」とお礼を述べていました。



▲柏木順子教育長(右)に寄付を手渡す米安会長(中央)

伊田校区親と子によるジョイントコンサート

美しい歌声と楽器演奏を披露

3月8日、田川青少年文化ホールで「第14回伊田校区親と子によるジョイントコンサート」が開かれました。

市内外でイベント出演などの活動をしている伊田小音楽同好会主催の演奏会。同会のほか、伊田中学校吹奏楽部や地元の唱歌同好会も出演しました。6部構成のプログラムで、ロック、ポップス、童謡など全20曲を披露。美しい歌声や楽器演奏で観客を楽しませました。

伊田小音楽同好会の6年生14人は、この日の演奏で卒業。同会リーダーの永井彩貴奈さんは「いい演奏ができました。メンバーは減りますが、これからも後輩たちにがんばってもらいたいです」と話しました。



▲真剣な表情で演奏する児童ら

東鷹高校美術部校外作品展

力作ズラリ 評価にドキドキ

3月10日～15日、東鷹高校美術部が、田川市美術館で作品展を開きました。

年に1度開催している恒例の作品展で、今年は部員13人(今年度の卒業生含む)が、油彩画、水彩画、デザイン画などを出展。高等学校文化連盟県大会の特選作品を含む36点の力作が並びました。開催初日に展示室の案内役を務めた古賀悟さん(卒業生)は「一般の人に見てもらえる機会が少ないので、お客さんから評価が聞けてうれしい」と話していました。作品を観覧した同校(旧田川東高校)卒業生の女性(85歳)は「立派な絵を描かれますね」と感心していました。



▲観覧客に絵の解説をする部員ら